



受験サプリ

アクティブラーニングで学ぶ楽しさを育て 「受験サプリ」で自主性を育む

いちむら

— 名古屋経済大学市邨高校(愛知・私立) —

取材・文／丸山佳子



後列右から
進路指導部主任 英語担当
中村弘之先生
澁谷有人校長
前列右から
英語担当
三原美樹先生
広報部主任 国語担当
手塚哲男先生

School Data

創立1907年／普通科
生徒数 1003人(男子441人・女子562人)
進路状況(2013年度)／大学進学57.8%・短大進学9.6%・
専各進学24.9%・就職3.3%・その他4.4%
愛知県名古屋市中種区北千種3-1-37
TEL 052-721-0161
URL <http://www.ichimura.ed.jp>

ICTツールを活用した学校改革

●生徒の様子が見えるガラス張りの自習室



「ガラス張りにして、ほかの生徒にも刺激を」と、校長の提案で誕生した自習室。この春には、「受験サプリ」対応の自習室も完成予定。

●英語から始まったALへの取り組み

「特進コース」以外の生徒を習熟度別に分け、グループ学習中心に行っている英語のAL。自ら調べ、まとめたことを英語で発表するなど、必ずアウトプットすることで、読む・書く英語だけでなく、話す英語が身につくようになったという。



●20台のプロジェクター導入で、授業を楽しく



視覚的授業が増えて生徒の顔が上ががり、生徒も発表機会が増えて授業を楽しむようになった。写真は、英語の発表風景。

●英語部では、スピーチコンテスト出場者も

「英語は得意ではなかったのですが、授業が楽しく英語部に入り、『英会話サプリ』で会話力がついてきたので、スピーチコンテストにトライしました。すごく自信になりました」と寺島美穂さん(文理コース・高校2年/写真前列右から3番目)



●「受験サプリ」を毎日の自習に活用



「昨年夏に『受験サプリ』に登録し、自宅でも毎日の自習に使っています。数学が好きなので、今は高2トップレベルを勉強中。教科書ではわかりづらい部分も、先生の解説を動画で繰り返し確認できるので、すごく便利です。英語は少し苦手なので、克服を兼ねて勉強しています」(尾上知穂さん。文理コース・高校2年)

「受験サプリ」は、自ら学び 行動する力を育む最適なツール

学校改革のきっかけは、2011年に着任した澁谷有人校長が「授業に興味をもてない生徒や寝ている生徒が多い。

2002年に校名変更をし、女子校から男女共学に移行した名古屋経済大学市邨高校は、創立100年を越える伝統校。付属中学が併設され、高校卒業後も短大、大学、大学院と学びのステージが用意された総合学園である。これまでは、そうした環境要因を生徒募集のアピールポイントに据えてきた同校だが、2013年から学校改革・授業改革に着手。きめ細かな進路指導をするために、国立・難関私大を目指す「特進」、私大・短大を目指す「文理」、専門的な知識や技術の習得を目指す「キャリアデザイン」と、コースを1つ増やしての3つに分類し、2014年からはアクティブラーニング(以下AL)を導入して大きな成果を上げている。

授業は楽しくなくてはいけない。生徒の顔を上げさせる授業をしよう」と新たな方針を打ち出したことだという。「そこで、生徒の自ら学ぶ力を伸ばすために自習室を設け、2013年夏には校内に無線LANを配してiPadやプロジェクトアタチを導入。ICT環境が整ったことで、最初に導入を検討したのが、人気予備校講師の授業をオンラインで学べる『受験サプリ』でした。理由は、受動的な通塾よりも自ら行動して学ぶ力を育めるツールだからです。その導入検討を始めたころ、『キャリアガイダンス』誌のAL特集を見たことがALに踏み出すきっかけとなり、多くの教材を検討して選んだのが、Skypeを使ってネイティブのレッスンを受けられる『英会話サプリ』です。現在は、この2つのツールを、自ら学び、行動する力を育てる授業改革の、2本の柱に位置づけています」と進路指導部主任で、英語担当の中村弘之先生。

2つのツールとも、本格導入は英語のALを開始した昨年4月。現在「受験サプリ」は、中学から高校まで約50名が登録して家庭学習に活用中。「英会話サプリ」は、約40名が登録し、英語部を中心に活用している。

ALとICTツールで独自のメソッド開発を

「料金は自己負担なので、『受験サプリ』は、受験を控えた高校3年の『特進コース』の生徒が中心。今年は自宅だけでなく、校内でも積極活用できるように、春休みにも大型の自習室の造設を計画しています」と中村先生。共に授業改革を推進してきた英語の三原美樹先生は、「AL導入で、生徒たちは『授業が楽しくなった』と言います。『英会話サプリ』も話せる英語が楽しく学べるツール。ぜひ、授業に取り入れたいですね」と話す。そして国語の手塚哲男先生も、「今は、国語もAL。今年は『受験サプリ』で自主性を伸ばしたい」と意欲的だ。

目指すところは、ALと「受験サプリ」などのICTツールをミックスした、市邨メソッドの開発である。